地震の基礎知識

地震発生時の行動

まずは身の安全を確保しましょう。

- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

【高層階（概ね 10 階以上）での注意点】

- 高層階では、揺れが数分続くことがある。
- 大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。

地震直後の行動

落ちついて 火の元確認 初期消火

- 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火した時は、落ちついて消火する。

あわてた行動 けがのもと

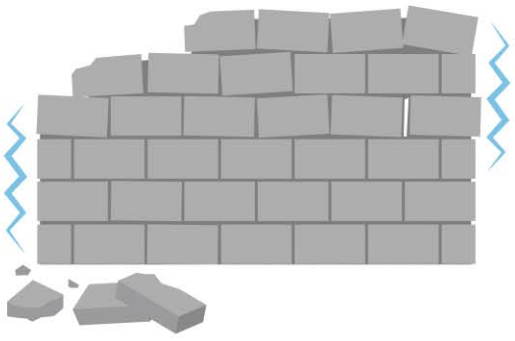
- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。

窓や戸を開け 出口を確保

- 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。

門や塀には近寄らない

- 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震発生後の行動

火災や津波 確かな避難

- 地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、津波避難ビルや指定緊急避難場所、指定避難所に避難する。
- 海や川の近くにいる時に、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。

正しい情報 確かな行動

- ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。

確かめ合おう 我が家の安全 隣の安否

- 我が家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。

協力し合って救出・救護

- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。

避難の前に安全確認 電気・ガス

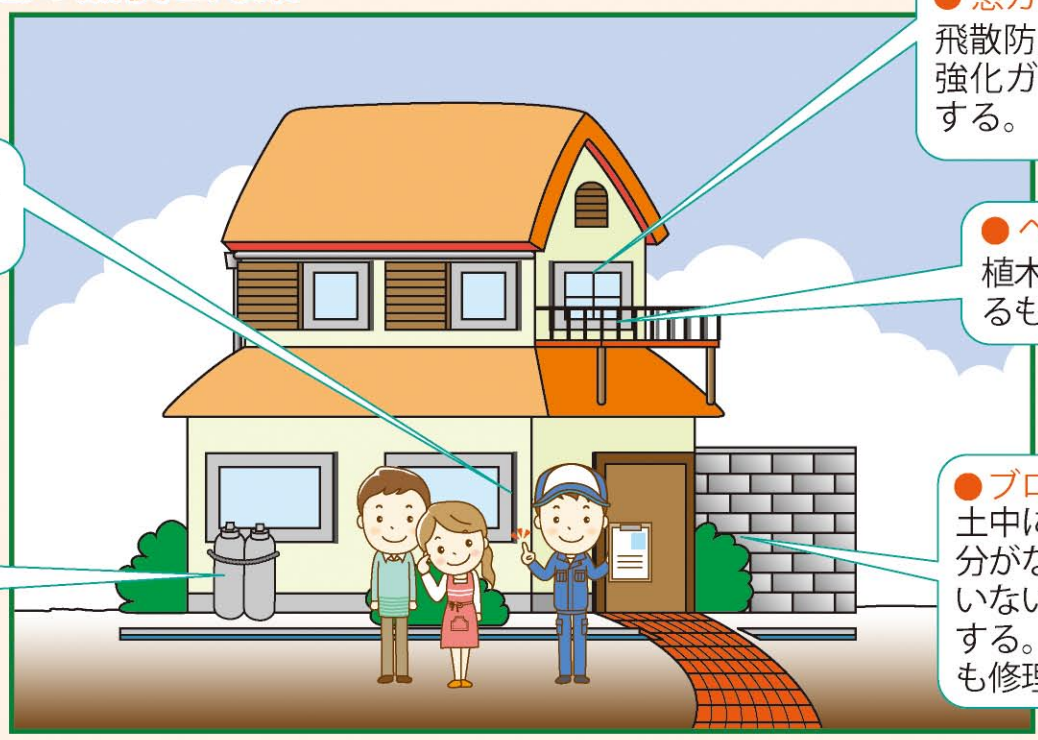
- 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。

引用）東京消防庁「地震 その時１０のポイント」

地震に備えて

地震発生時には、ケガなどで避難できない状況にならないことが重要です。地震による死亡やケガの原因で多いものの１つは、家屋の倒壊や家具の転倒によるものであり、阪神・淡路大震災での死因の約８割を占めていました。家具等の転倒・落下による被害は、事前の対策で軽減することができます。地震に強い家づくりに努めましょう。

我が家とその周辺の点検と対策



●窓ガラス
飛散防止フィルムを貼る。
強化ガラス、ペアガラス等にする。

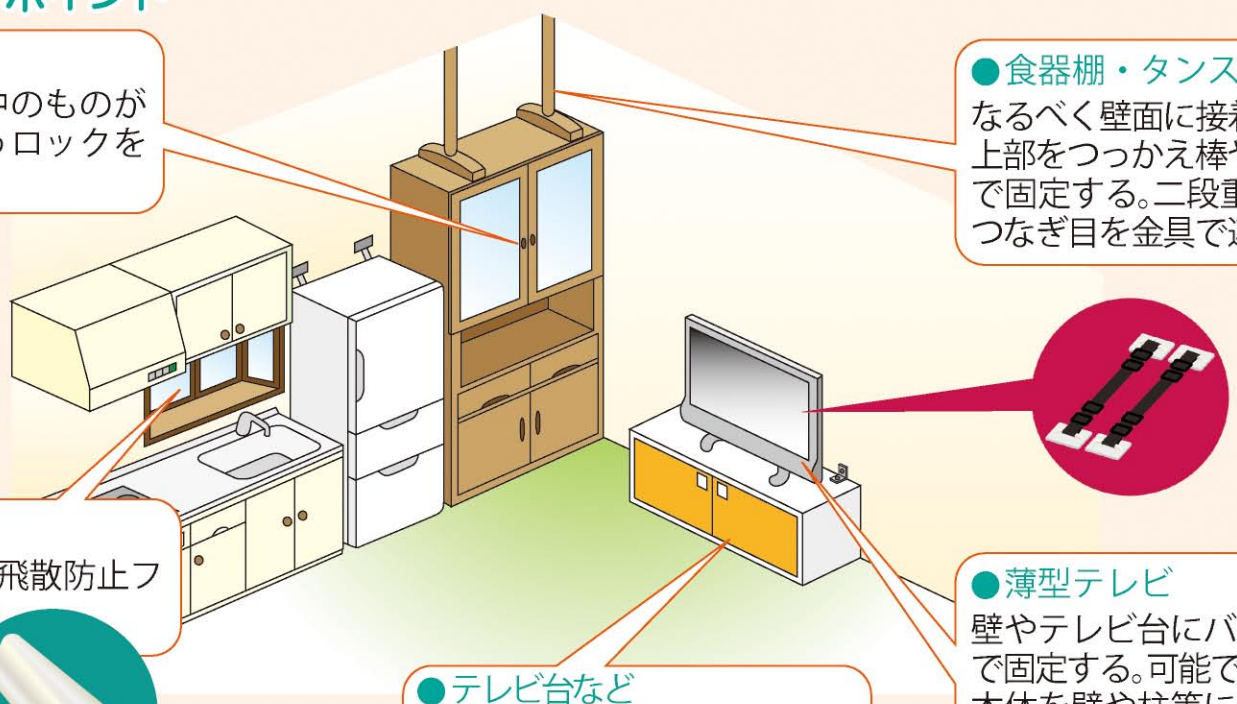
●耐震診断
専門家にチェックしてもらう。

●ベランダ
植木鉢など落ちる危険があるものは置かない。

●ブロック塀
土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

●プロパンガス
ボンベを鎖で固定しておく。

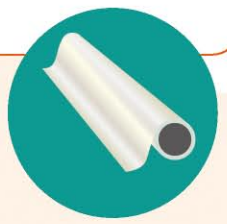
家具の配置のポイント



●扉
食器や本など、中のものが飛び出さないようロックをつける。

●食器棚・タンスなど
なるべく壁面に接着させておき、上部をつっかえ棒やＬ字型金具で固定する。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結する。

●ガラス
窓やガラス扉には飛散防止フィルムをはる。



●薄型テレビ
壁やテレビ台にバンドやねじ等で固定する。可能であればテレビ本体を壁や柱等に固定するとより安全性が高まる。

●テレビ台など
キャスター付きの家具はなるべく避け、使うときはストッパーをかける。

耐震診断

日本建築防災協会が、木造住宅の耐震診断・耐震改修を推進するため、簡単に行える診断法として、**「誰でもできるわが家の耐震診断」**を作成しています。昭和 56 年より前に建てられた旧耐震基準の家にお住まいの方は是非このプログラムを使用して、わが家の地震に対する強さをチェックしてください。

詳しくは、次のホームページをご覧ください。

誰でもできるわが家の耐震診断　検索

多賀城市では、市内にある木造住宅の耐震診断を希望する場合に耐震診断士を派遣します。

詳しくは都市計画課におたずねください。

津波の基礎知識

津波から命を守る情報と行動

⚠こんなときには

- 強い地震や長時間の揺れを感じた
- 大津波警報（特別警報）・津波警報が発表された（揺れを感じなくても）
- 海や川の近くにいるときに津波注意報が発表された（揺れを感じなくても）
- 市区町村から避難指示が発令された※

避難する

⚠まずこのような行動を

- 沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や避難ビルなどの安全な場所へ避難する
- より高い場所を目指して避難する
- 避難対象区域又はその付近にいる人は直ちに避難する
- 海の中にいる人は、直ちに海から上がって、海岸から離れる

⚠その後は・・・

- 十分に安全性が確認され、避難指示が解除されるまで帰宅しない
- 津波は繰り返し来襲するので、警報・注意報が解除されるまでは絶対に海岸に近づかない
- 正しい情報をラジオ・テレビなどで入手する

※ただし、津波注意報・警報・大津波警報によって避難指示の発令対象区域は異なります。

津波警報・注意報の種類

気象庁では津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約３分を目標に津波警報（大津波、津波）、または津波注意報を発表します。

警報・注意報の分類	予想される津波の高さ		
	高さの区分	数値での発表（発表基準）	巨大地震の場合の表現
大津波警報（特別警報）	10m＜高さ	10m超	巨大
	5m＜高さ≦10m	10m	
	3m＜高さ≦5m	5m	
津波警報	1m＜高さ≦3m	3m	高い
津波注意報	20cm≦高さ≦1m	1m	（なし）

津波に関わる標識

津波に関わる標識には次のようなものがあります。

津波注意（危険地域）	津波避難場所	津波避難ビル
「津波が起きた場合、津波がおそってくる危険性が高い地域」を表しています。	「津波に対して安全な避難場所・高台」を表しています。	「まわりに高台がない場合に利用する。津波から避難できる高さ、耐震性があるビル」を表しています。
津波注意	津波避難場所	津波避難ビル

津波の特徴

津波の特徴を知って警戒しましょう

水深20cmでも命は危険

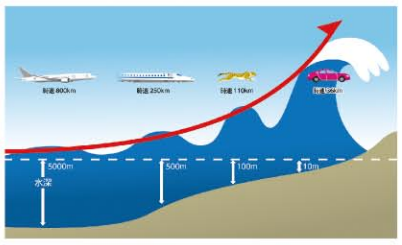
20～30cm の深さでも津波の勢いに足をとられて立っていられません。水深 1m ではほとんどの人が亡くなってしまいます。

すさまじい威力

水深 1～2m では家屋は全壊・流出のおそれがあります。瓦礫など漂流物を巻き込むと、さらに威力を増し防波堤等を壊すこともあります。

猛烈なスピード

非常に速く、沖合ではジェット機並み。陸に近づいても自動車並みに速いので、見てから逃げるのでは間に合いません。

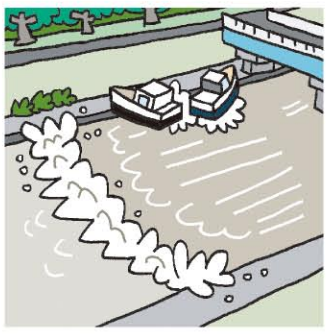


引き波の破壊力がすごい

引き波は徐々に速くなるので、押し波より破壊力が大きくなります。陸で引き波にさらわれて、沖合まで流されることもあります。

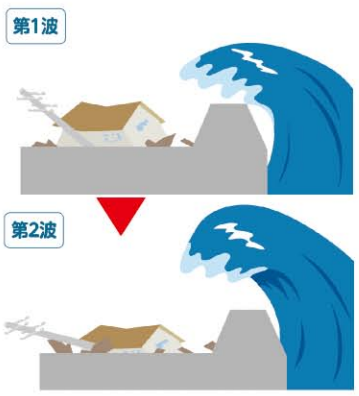
川や水路を遡上する

海岸に到達した津波は、川や水路を遡上します。逆流した津波で川の堤防が決壊し、内陸部から津波が襲うこともあります。



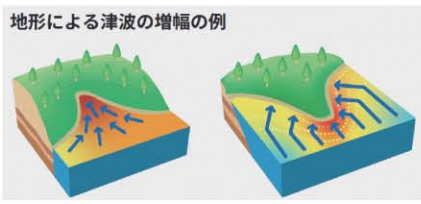
繰り返しやってくる

津波は何度もやってきます。第 1 波が最大とは限らず、何時間も後の第 2 波、第 3 波の方が大きいことがあります。



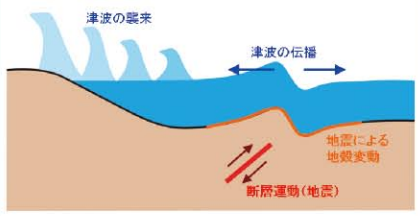
海岸地形で変化する

津波の高さは海岸地形で変化します。V 字型の湾や岬の先端に津波のエネルギーが集まるので、局所的に波が高くなります。



長時間にわたって警戒を

津波は長時間にもわたり襲ってきます。地震後、数日間続くこともあるので、油断せず、津波警報・注意報の解除を待ちましょう。



一部イラスト出典：気象庁、地震調査研究推進本部、国土交通省

津波避難の５つのポイント

ポイント１ 海の近くで強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら急いで逃げる。

ポイント２ 揺れを感じなくても、津波警報が発表されたら急いで逃げる。

ポイント３ 「より遠く」ではなく「より高く」を目指す。

ポイント４ 海岸や河川からできるだけ遠ざかるように避難する。

ポイント５ 津波は長時間続くので、津波警報・注意報が解除されるまで避難を続ける。

※原則徒歩で避難しましょう